

シグマ研究委員会核データ専門部会  
ガンマ線生成核データワーキンググループ議事録

日 時 昭和 55 年 10 月 6 日 (月) 13:30 ~ 17:00  
場 所 原研本部第 5 会議室  
出席者 川合, 河北, 浅見, 井頭, 水本, 山越, 吉田, 播磨, 五十嵐  
オブザーバー : 福留

配布資料

1.  $\gamma$ -ray production cross section storage program.
2. GROGI による計算例
3. INDC (NDS) - 112/LNQ

議 事

1. 山室先生(東工大)がBNLで行われたNuclear Data Evaluationのworkshopに出席し、その様子を傍聴した。Fuがガンマ線データ評価の世界の状況を報告し、その中で日本の北沢氏等の仕事を取りあげて、日本でも活動が行われていることを紹介した。  
北沢氏は3月末まで留学が延びた。(井頭)
2. 資料1によりdiscrete  $\gamma$ -ray intensity, branching ratioなどの測定値を格納するプログラムについて、その構想の説明があった。共鳴パラメータの測定データ格納プログラムREPSTORを参考に行っている。コーディングは中川氏がやってくれるが、SPECは水本, 井頭, 川合の3氏で決める。年度内完成を目指す。核構造データ格納ファイルも参考に行ってみる。(水本)
3. 資料3により、ガンマ線データ関係の文献調査を行うことになった。7, 8, 9頁の文献を東工大で調べる。
4. SPLINTによるガンマ線データのプロットが測定データについてはできるようになったが、ENDF/BのFile 12~~~14~~<sup>15</sup>はまだできない。1ヶ月以内にできるようにする。(浅見)  
→ 2日後に浅見氏

5. CASTHY 2は熱中性子のガンマ線全エネルギーがBnに一致しないので、更に検討している。(五十嵐)
6. GROGI-3Aは dimension の拡張などを行って、完成までにもう一步である。Ti<sup>(j)</sup> と Sn の計算部分が未解決である。(川合)  
FISPA 2を山本氏から入手した。fission-7 の計算に使える。STAF より良いと考えられる。
7. 資料 2.により浅見氏から GROGI による計算例の説明があった。Howerton の経験式も比較して示してある。
8. 今後の作業計画
  - 各人の担当核種の data 収集を進める。
  - NESTOR data の plot を進める。
  - FISPA2 を検討する。

次 回 11月14日 東海